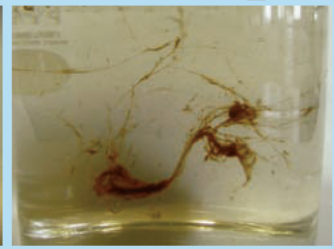
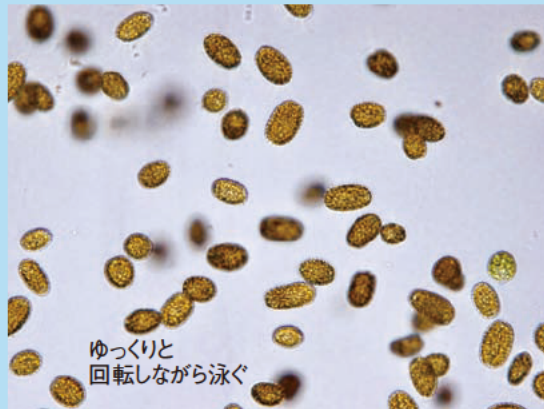


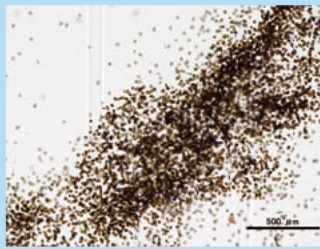
フィブロカプサ ジャポニカ(ラフィド藻)

(*Fibrocapsa japonica*)

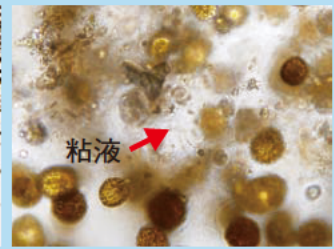
動画



赤潮発生時に見られた浮遊物(細胞凝集塊)



細胞凝集塊(拡大)

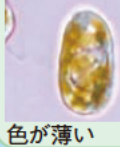


糸状の粘液にからまった細胞



動画

泳ぎが速い



類似種1

- ヘテロシグマ アカシオ
- ◆ やや小さい(10~25μm)
 - ◆ 形は変化に富む
 - ◆ 色が薄い(薄い黄褐色)
 - ◆ 活発に泳ぐ

大きい



類似種2

- シャットネラ マリーナ
- ◆ かなり大きい(30~50μm)
 - ◆ 細胞下端がやや尖る
 - ◆ 葉緑体が顆粒状

動画

大きさ 長さ20~30μm、幅15~17μm

形態 色は黄褐色~茶褐色。細胞は楕円形。ほぼ同じ長さの鞭毛が2本あり、前方と後方に伸びるが、後方の鞭毛は観察しづらい。葉緑体が多数あるが、互いに接着して網目状に配列しているため、一個ずつを確認するのは難しい。

動き ゆっくりと回転しながら泳ぐ。

その他 細胞の表面近くに棒状の粘液胞(ねんえきぼう)があり、刺激を受けると長い糸状の粘液が放出される。赤潮になると、細胞どうしが粘液で絡まって凝集塊(ぎょうしゅうかい)となり、海水中を浮遊することがある。

漁業への影響：魚介類への影響は不明だが、粘液胞から放出される糸状の粘液物質が魚類の鰓につまって窒息死させることがあるとの情報もある。赤潮発生時に形成される浮遊物(細胞凝集塊)が船のエンジンポンプにつまって、エンジントラブルを引き起こしたことが報告されている。

漁業被害：平成20年に阿曾浦で赤潮(最高細胞数:10,150細胞/ml)が発生し、細胞凝集塊の浮遊が確認されたが、漁業被害はなかった。

発生海域：熊野灘沿岸

発生時期：6~10月頃(夏季~秋季)